

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷(1Fユニット)		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaj.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&ji_gyosyoCd=2278300311-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院なので何かあった時すぐに受診ができる。筋力維持の為散歩以外に毎日全員で嚙下体操やテレビ体操をしたり、階段昇降や竹ふみにも取り組んだりしている。骨折後等の筋力低下による身体の歪みや痛みに対し治療の必要性があり希望者には個別で接骨院への通院援助をしている。園芸療法として中庭や、近隣の専門学校の敷地を借り、季節の花や野菜を植え、育て収穫し調理をしている。毎月季節に合った行事や書道を取り入れ、活動の様子を載せたお便りを利用者や家族に発行している。出張による床屋や、ヤクルト、十全売店、杏林堂による配達サービス等の社会資源を活用し、生活の質の向上に努めている。感染症の状況に応じ随時面会方法を検討し、なるべく顔を合わせて会話ができるよう、家族や馴染みの方との交流を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4年ぶりの開催となった法人納涼祭には、学生ボランティアも含め1000人が来場して賑わい、コロナ禍以前のような地域交流の活気が戻りつつあります。「子どもにかえったみたい」とはしゃぐ姿や、家族と一緒に回り、ポテトや焼きとうもろこしを手に「太鼓、聞いてきたよ」と知らせる表情に嬉し涙を浮かべる利用者もいて、絆の深さを改めて感じる一日でした。事業所理念「気持ちの良い生活」という短いフレーズに込められた万感の思いは、日頃の丁寧な関わりと観察がきめ細やかに組み込まれた介護計画からうかがい知ることができ、その実践は数々の写真に収められた穏やかな表情に裏付けられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日目に入る玄関に「気持ちの良い生活」と理念を掲示し、職員全体で共有している。	ひときわ目を引く達筆な書で「気持ちの良い生活」と玄関に掲げ、「どのようにすれば本人が気持ち良く生活できるか」を常に職員全員で考え、ケアに悩んだ時にはこの理念に立ち返るものとして、短いフレーズに込められた万感の思いを毎日の暮らしにつなげ表現しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩に出た際に、近隣の方々と挨拶を交わしている。また、4年ぶりに法人主催による納涼祭が開催され、ご家族や近隣住民等多くの方々に参加して頂き、交流の場となった。	4年ぶりの開催となった納涼祭は専門学校生のボランティアも含め1000人が来場し、出店や和太鼓演奏で盛り上がりました。久しぶりの地域交流行事を家族とともに巡り、出店の品を手「太鼓聞いてきたよ」と語る利用者は嬉し涙を浮かべ、思い出深い一日となりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いたり、町内会用のお便りを発行し、認知症の理解や支援、協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、入退去状況や活動内容、ヒヤリハットや事故事例などの報告をし、地域とのつながりをもてるよう意見交換を行っている。出た意見は、サービスの質の向上に活かすよう努めている。	フロアごとに日常生活やレクリエーションなど、2ヶ月間の利用者の様子を記述した資料も添付して報告しています。「今年こそは」と楽しみにしていた平口花火大会が本年も中止となる情報をいち早く入手でき、臨時の「ミニ花火大会」を企画して夏の風物詩を堪能できた経緯もあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、意見交換の機会を作り関係作りに努めている。都合で欠席される場合は、会議資料を役所へ郵送している。	運営推進会議には市介護保険課、地域包括支援センター職員の出席があります。新型コロナウイルスワクチン接種や気象・災害に関する注意喚起など、市から配信されるメールは重要なお知らせとして、職員が常に目にするタイムレコーダー設置場所に掲示して情報共有しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ミーティングの際話し合い、また、研修も定期的に行われており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者様の安全の為にエレベーターの操作や玄関のドアを開ける際は、職員が行っている。	現在、例外三原則に係るケースはありません。運営推進会議と同日に開催する身体的拘束適正化検討委員会では、日頃のケアに潜む拘束事例として、行動を制限する言葉や声のトーン、大きさを課題に挙げ、研修に取り入れて改善への糸口を考察し、共通理解でケアに臨んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ミーティングの際話し合い、また、研修も定期的に行われており、虐待のないように注意を払い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会があり、必要性のある方がいたら、状況に応じて活用できるようにしていきたい。すでに活用されている方も数名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様のご家族と十分に話し合い、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や面談、電話等で要望を伺ったり、あった際は、情報を共有し、意見を反映している。	「文字を忘れないように字を書く機会を」という家族の要望から始めた「一言日記」が現在に至り、夕方のひと時に一日を振り返り、名前、日付、その日の出来事を書いています。周りの人と相談しながら書いたり、発声練習も兼ねて発表し合うなど、暮らしの中に浸透しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者、主任、副主任、各計画作成担当者で会議を行い、反映させている。それ以外でも、職員が相談しやすい場や時間を確保している。	休憩スペースの確保に難題があるフロアにはパーテーションを活用してオンとオフの切り替え空間をつくるなど、フロアミーティングで出された職員意見をリーダー会議に持ち寄って反映させています。担当職員ごと個別におこなうケアプラン会議も意見反映の場として機能しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月希望休を通したり、年1回(3日間)リフレッシュ休暇が取られるよう調整している。年に4回自己評価をした上で各自で目標を立て、向上していけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に参加する機会があり、必要な知識や技術を学んでいる。参加出来なかった職員も、資料を回覧し勉強の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により対面での交流は減ったが、オンラインでの研修へ参加し交流している。そこで意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたばかりの時は特に気にかけて、出来るだけ傍に寄り添い困っていること等要望を聞き、安心して生活できるよう、また信頼関係が築けるように努め、また周りとの馴染めるよう居場所作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談の時に出来るだけお話を伺えるよう努めている。また面会に来た時等に利用者様の様子を伝えたり、お話を伺えるよう努めている。 また、職員間で情報を共有するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の要望を聞き、職員間で話し合い、ご本人の様子を見ながら支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、ご本人が出来ること、してきた事が継続して出来るよう支援し、必要に応じさりげなくサポートするように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にてご本人の様子を伝えたり要望を伺ったりして、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況に応じ面会方法を検討し、なるべく直接顔を合わせて会話ができるよう配慮している。「外出したい」「電話をかけたい」という要望に応え、関係が途切れないよう支援している。	今年度4月より面会は「エレベーター前で2名まで10分」と制限はあるものの、久しぶりに対面で会える喜びをかみしめています。馴染みの美容院で髪を染めたり、お盆には家族とお墓参りに出かけたり、友人の協力により、合唱団への参加を継続できている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士近くに居られるよう席の配置に配慮したり、必要に応じて職員が橋渡しをしている。レクリエーションを行う時はできるだけ全員参加できるようにお声がけするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は疎遠になってしまうことがほとんどだが、ご家族よりお話を伺う機会もある為、築いてきた関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴や会話や日頃の様子、ご家族からの情報等から、本人の思いや希望になるべく添えるよう支援をしている。	日々綴っている日記から読み取ったり、ゆったりと隣に座り、何気ない会話を交わす中で聞かれる「お寿司食いたい」「髪を染めたい」といったつぶやきを汲み取って反映しています。言葉での表出が難しい人には職員からのアプローチによる表情の変化から意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から話を聞き、生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やバイタルチェックを行い、本人とのコミュニケーションや職員間で情報を共有することで、現状の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングやケアプラン会議を行い、現状に沿ったプランになるようにしている。ご家族や医療関係者等の意見も反映し、現状に即した介護計画になるよう作成している。	「靴の踵を踏んでいたら声をかけしっかり履いてもらう」「付き添いを嫌がるので視界に入らないように」「食器洗いは汚れが残るがこっそり洗い直す」など、利用者の特性を把握・理解したサービス内容からは日頃の丁寧な関わりや観察がうかがえ、こまやかなケアの実践を裏付けています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や受診記録は個別で記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何かあれば周りの職員やケアマネ、管理者等へ報告・相談し、ご家族等とも協力し、柔軟に対応できるよう常に現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	床屋さんの出張依頼・美容院の付き添い・長年通っていた合唱団への参加など利用者様が豊かな生活を送れるよう支援している。ネットスーパーの活用も始めた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週に1回、かかりつけの病院へ受診している。受診記録をご家族に郵送している。必要に応じ、ご家族に同行していただいたり、治療方針についてご家族に相談している。	外部の病院受診は家族が付き添いますが、多数の診療科を有する母体の協力医へ全員が変更しています。定期受診は看護師資格をもつ管理者が立ち会い、結果は個人記録として受診連絡表に記録し、毎月家族のもとへ届けられ、その速やかな対応に「安心」の声が上がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、バイタルチェックを行い、異変があった時やいつもと様子が違ったり気になることがあった際はその都度看護師に報告・相談している。必要に応じて病院へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が同行するので常の様子を伝えている。入院中の様子は、看護師や医師から聞いたりサマリーにて情報を共有している。生活環境が変わると不穏になる方が多く、なるべく入院期間が短くなるよう主治医が配慮して下さる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	電話や、面談の場を設け、施設で出来ることを説明し、ご家族の意向等を確認し、方針を決めるようにしている。	看取りはおこなっていません。経口摂取できなくなったり、認知症の進行により介護抵抗が強くなるなど重度化が予想され、事業所での生活が難しくなった時には、本人や家族が望む生活を選択するための話し合いをもつことを入居前の見学及び入居時面談で伝え、合意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のミーティングで、職員全員がマニュアルを確認し、緊急時に慌てず対応できるようにしている。必要に応じ、マニュアルの内容を更新している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っており、同時に連絡網の訓練も行っている。非常時に備え、厨房業者の備蓄以外にも、長期保管可能なパンや水を施設で備蓄している。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を築けるよう努めている。	地震～火災からの避難において初期消火、消防機関への通報、避難誘導が円滑におこなわれるよう、夜間想定を含め年2回の防災訓練を実施しています。12月の地域防災訓練には管理者、介護老人保健施設看護師が参加し、法人としての連携体制を築いています。	訓練メニューの一覧表を作成し体験度合いをチェックするなど、どの職員も漏れなく体験できることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、言葉遣いや対応に気を付け対応している。一人の人間、また人生の大先輩であるということを常に頭に置き、対応に努めている。	歩行不安定でも自立心が強い利用者には、視界に入らないように付き添ったり、役割として食器洗いや洗濯物干しを依頼する際、指示的態度になっていないか、難聴の人への声かけが他の人に耳障りとなっていないか、といった気づきをミーティングで確認し合い、省みています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方や、お手伝いをするときは本人に聞いて決めてもらったり、表情からも気持ちを汲み取られる様心掛けている。又、更衣をする際は衣類を選んでもらう等、自己決定できるよう機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人が自分のペースで過ごせるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでもらったり、個別で化粧やスキンケアができるよう支援している。美容院や、出張による床屋さんで好きな髪形を伝え切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずをよそってもらったり、味噌汁の具を選んで切ってもらっている。週1回の手作りの昼食はみんなでメニューを考える時間を設けている。片付けは、出来る方が多く自分で食器を洗ってもらっている。	食後の自然な下膳に触発され、自宅ではやらなかった人でも食器を運ぶ姿に家族が驚いたというエピソードがあります。園芸療法で丹精込めた野菜を取り入れる週1回の手作り昼食では、慣れた手つきで下ごしらえする姿や、ホットプレートを囲んで談笑する光景があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事形態を変えている。しっかり水分摂取ができるように、本人の好みに合わせ飲み物やゼリー等を提供したり、声掛けをして促すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声掛けにて歯磨きをしてもらっている。昼食前に全員で嚥下体操の時間を設けている。又、年に1度歯科受診をし、口腔内の確認をもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、食事前後等にトイレの声掛けや誘導をしている。日中はなるべくトイレで排泄できるよう促している。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、便秘がもたらす身体の不調や精神的苦痛、認知症の周辺症状にも着目した結果、生活リズムが整い、平穏な生活を取り戻した例があります。トイレが頻回な人に、夜間はポータブルトイレを置くことで安眠につながった人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヤクルトなどの乳製品や粉末の食物繊維等を摂取し、自然排便ができるよう援助している。体操や散歩など体を動かし腸活にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に入りたい時間を聞き、本人の希望に合わせるよう努めている。入浴剤を使用しリラックスした気持ちで入浴できるようにしたり、温度計で温度を確認して事故予防すると共に、その人にあった温度で気持ち良く入浴ができるよう支援している。	週2回が基本ですが、汗をかいた時や「今日入りたい」という要望に応えられるよう柔軟に対応しています。足指に傷ができやすい人もいて、血行が良くなるよう足浴をおこない、入浴後の皮膚トラブルチェックや保湿も介護計画に示され、疾患への意識の高さを示しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は活動的過ぎ、夜間はゆっくり休息ができるよう生活リズムを整えている。室内に温湿度計があるので調整をし、快適に過ごせるようにしている。トイレが近い方にはポータブルトイレを置き、安心して休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の情報を把握できるように、個々にお薬情報をファイルに閉じている。体調の変化によって薬の調節が必要な場合は、看護師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる事を提案し、パズルや塗り絵、書き取りや計算問題などに取り組んでいる。洗濯干しや食器洗いをして役割を持ち張り合いのある生活ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響で外に出る機会が減りましたが、状況に応じ家族や友人と、お墓参りや自宅へ外出する機会もある。日々の散歩は継続している。	梅や桜も楽しめる同一法人敷地内のエーデル公園まで散歩に出かけて清々しい空気を満喫しています。また、フロアごとの行事でお花見や紅葉狩りといったドライブを企画し、市内を巡る車窓からの眺めを懐かしみ、自宅付近を回る際には変わらない様子に安堵する日もあります。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は、お小遣いとして職員が管理している。手持ちがほしいと利用者様から要望があった際は、ご家族等と相談の上、自己管理が可能な範囲で渡す場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月にはご家族に年賀状を書いたり、知人と手紙交換をしている方もいる。必要に応じてご家族や友人と電話でのやりとりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りやぬりえを利用者様と作成し、食堂前の掲示板に掲示して、季節感を味わうようにしている。また適切な温度、湿度を保つようにエアコンや加湿器で調節をしている。	豊かな田園風景から季節の移り変わりを感じられる立地条件ですが、業者の定期的な防虫剤散布により害虫対策を施し、法人施設課による施設内清掃で清潔な環境を維持しています。四季折々の情景を書や制作品、花や野菜に込めて紡ぎ出す利用者の表情はどれも和やかです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で話ができるよう、席の配慮をしたり、食堂にはソファが置いてあり、テレビを見たり自由に過ごせる環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた家具等を置くようにしている。居室の家具は家族や本人と相談して配置するようにし、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	転倒時の衝撃緩和のためにジョイントマットやタイルカーペットが施され、自宅で愛用していた電位治療器やミシン等が持ち込まれています。取扱いに安心なスチロール素材を活用し、得意な工作でペン立てや掲示ボードを作り、自作の収納グッズに囲まれた居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に貼り紙をして、場所を分かりやすく表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷(2Fユニット)		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaj.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2278300311-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院なので何かあった時すぐに受診ができる。筋力維持の為散歩以外に毎日全員で嚙下体操やテレビ体操をしたり、階段昇降や竹ふみにも取り組んだりしている。骨折後等の筋力低下による身体の歪みや痛みに対し治療の必要性があり希望者には個別で接骨院への通院援助をしている。園芸療法として中庭や、近隣の専門学校の敷地を借り、季節の花や野菜を植え、育て収穫し調理をしている。毎月季節に合った行事や書道を取り入れ、活動の様子を載せたお便りを利用者や家族に発行している。出張による床屋や、ヤクルト、十全売店、杏林堂による配達サービス等の社会資源を活用し、生活の質の向上に努めている。感染症の状況に応じ随時面会方法を検討し、なるべく顔を合わせて会話ができるよう、家族や馴染みの方との交流を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4年ぶりの開催となった法人納涼祭には、学生ボランティアも含め1000人が来場して賑わい、コロナ禍以前のような地域交流の活気が戻りつつあります。「子どもにかえったみたい」とはしゃぐ姿や、家族と一緒に回り、ポテトや焼きとうもろこしを手に「太鼓、聞いてきたよ」と知らせる表情に嬉し涙を浮かべる利用者もいて、絆の深さを改めて感じる一日でした。事業所理念「気持ちの良い生活」という短いフレーズに込められた万感の思いは、日頃の丁寧な関わりと観察がきめ細やかに組み込まれた介護計画からうかがい知ることができ、その実践は数々の写真に収められた穏やかな表情に裏付けられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日目に入る玄関に「気持ちの良い生活」と理念を掲示し、職員全体で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た際に、近隣の方々と挨拶を交わしている。また、4年ぶりに法人主催による納涼祭が開催され、ご家族や近隣住民等多くの方々に参加して頂き、交流の場となった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いたり、町内会用のお便りを発行し、認知症の理解や支援、協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催し、入退去状況や活動内容、ヒヤリハットや事故事例などの報告をし、地域とのつながりをもてるよう意見交換を行っている。出た意見は、サービスの質の向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、意見交換の機会を作り関係作りに努めている。都合で欠席される場合は、会議資料を役所へ郵送している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ミーティングの際話し合い、また、研修も定期的に行われており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者様の安全の為にエレベーターの操作や玄関のドアを開ける際は、職員が行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ミーティングの際話し合い、また、研修も定期的に行われており、虐待のないように注意を払い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会があり、必要性のある方がいたら、状況に応じて活用できるようにしていきたい。すでに活用されている方も数名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様のご家族と十分に話し合い、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や面談、電話等で要望を伺ったり、あった際は、情報を共有し、意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者、主任、副主任、各計画作成担当で会議を行い、反映させている。それ以外でも、職員が相談しやすい場や時間を確保している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月希望休を通したり、年1回(3日間)リフレッシュ休暇が取られるよう調整している。年に4回自己評価をした上で各自で目標を立て、向上していけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に参加する機会があり、必要な知識や技術を学んでいる。参加出来なかった職員も、資料を回覧し勉強の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により対面での交流は減ったが、オンラインでの研修へ参加し交流している。そこで意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたばかりの時は特に気にかけて、出来るだけ傍に寄り添い困っていること等要望を聞き、安心して生活できるよう、また信頼関係が築けるように努め、また周りとの馴染めるよう居場所作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談の時に出来るだけお話を伺えるよう努めている。また面会に来た時等に利用者様の様子を伝えたり、お話を伺えるよう努めている。 また、職員間で情報を共有するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の要望を聞き、職員間で話し合い、ご本人の様子を見ながら支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、ご本人が出来ること、してきた事が継続して出来るよう支援し、必要に応じさりげなくサポートするように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にてご本人の様子を伝えたり要望を伺ったりして、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況に応じ面会方法を検討し、なるべく直接顔を合わせて会話ができるよう配慮している。「外出したい」「電話をかけたい」という要望に応え、関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士近くに居られるよう席の配置に配慮したり、必要に応じて職員が橋渡しをしている。レクリエーションを行う時はできるだけ全員参加できるようにお声がけするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は疎遠になってしまうことがほとんどだが、ご家族よりお話を伺う機会もある為、築いてきた関係性を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴や会話や日頃の様子、ご家族からの情報等から、本人の思いや希望になるべく添えるよう支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から話を聞き、生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やバイタルチェックを行い、本人とのコミュニケーションや職員間で情報を共有することで、現状の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングやケアプラン会議を行い、現状に沿ったプランになるようにしている。ご家族や医療関係者等の意見も反映し、現状に即した介護計画になるよう作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や受診記録は個別で記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何かあれば周りの職員やケアマネ、管理者等へ報告・相談し、ご家族等とも協力し、柔軟に対応できるよう常に現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	床屋さんの出張依頼・美容院の付き添い・長年通っていた合唱団への参加など利用者様が豊かな生活を送れるよう支援している。ネットスーパーの活用も始めた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週に1回、かかりつけの病院へ受診している。受診記録をご家族に郵送している。必要に応じ、ご家族に同行していただいたり、治療方針についてご家族に相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、バイタルチェックを行い、異変があった時やいつもと様子が違ったり気になることがあった際はその都度看護師に報告・相談している。必要に応じて病院へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が同行するので常の様子を伝えている。入院中の様子は、看護師や医師から聞いたりサマリーにて情報を共有している。生活環境が変わると不穏になる方が多く、なるべく入院期間が短くなるよう主治医が配慮して下さる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	電話や、面談の場を設け、施設で出来ることを説明し、ご家族の意向等を確認し、方針を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のミーティングで、職員全員がマニュアルを確認し、緊急時に慌てず対応できるようにしている。必要に応じ、マニュアルの内容を更新している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っており、同時に連絡網の訓練も行っている。非常時に備え、厨房業者の備蓄以外にも、長期保管可能なパンや水を施設で備蓄している。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を築けるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、言葉遣いや対応に気を付け対応している。一人の人間、また人生の大先輩であるということを常に頭に置き、対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方や、お手伝いをするときは本人に聞いて決めてもらったり、表情からも気持ちを汲み取られる様心掛けている。又、更衣をする際は衣類を選んでもらう等、自己決定できるよう機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人が自分のペースで過ごせるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでもらったり、個別で化粧やスキンケアができるよう支援している。美容院や、出張による床屋さんで好きな髪形を伝え切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずをよそってもらったり、味噌汁の具を選んで切ってもらっている。週1回の手作りの昼食はみんなメニューを考える時間を設けている。片付けは、出来る方が多く自分で食器を洗ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事形態を変えている。しっかり水分摂取ができるように、本人の好みに合わせ飲み物やゼリー等を提供したり、声掛けをして促すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声掛けにて歯磨きをしてもらっている。昼食前に全員で嚥下体操の時間を設けている。又、年に1度歯科受診をし、口腔内の確認をもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、食事前後等にトイレの声掛けや誘導をしている。日中はなるべくトイレで排泄できるよう促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヤクルトなどの乳製品や粉末の食物繊維等を摂取し、自然排便ができるよう援助している。体操や散歩など体を動かし腸活にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に入りたい時間を聞き、本人の希望に合わせるよう努めている。入浴剤を使用しリラックスした気持ちで入浴できるようにしたり、温度計で温度を確認して事故予防すると共に、その人にあった温度で気持ち良く入浴ができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は活動的過ごし、夜間はゆっくり休息ができるよう生活リズムを整えている。室内に温湿度計があるので調整をし、快適に過ごせるようにしている。トイレが近い方にはポータブルトイレを置き、安心して休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の情報を把握できるように、個々にお薬情報をファイルに閉じている。体調の変化によって薬の調節が必要な場合は、看護師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる事を提案し、パズルや塗り絵、書き取りや計算問題などに取り組んでいる。洗濯干しや食器洗いをして役割を持ち張り合いのある生活ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外に出る機会が減っていましたが、状況に応じ家族や友人と、お墓参りや自宅へ外出する機会もある。日々の散歩は継続している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は、お小遣いとして職員が管理している。手持ちがほしいと利用者様から要望があった際は、ご家族等と相談の上、自己管理が可能な範囲で渡す場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月にはご家族に年賀状を書いたり、知人と手紙交換をしている方もいる。必要に応じてご家族や友人と電話でのやりとりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りやぬりえを利用者様と作成し、食堂前の掲示板に掲示して、季節感を味わうようにしている。また適切な温度、湿度を保つようにエアコンや加湿器で調節をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で話ができるよう、席の配慮をしたり、食堂にはソファが置いてあり、テレビを見たり自由に過ごせる環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた家具等を置くようにしている。居室の家具は家族や本人と相談して配置するようにし、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に貼り紙をして、場所を分かりやすく表示している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷(3Fユニット)		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	令和5年9月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaj.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2278300311-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年9月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院なので何かあった時すぐに受診ができる。筋力維持の為散歩以外に毎日全員で嚙下体操やテレビ体操をしたり、階段昇降や竹ふみにも取り組んだりしている。骨折後等の筋力低下による身体の歪みや痛みに対し治療の必要性があり希望者には個別で接骨院への通院援助をしている。園芸療法として中庭や、近隣の専門学校の敷地を借り、季節の花や野菜を植え、育て収穫し調理をしている。毎月季節に合った行事や書道を取り入れ、活動の様子を載せたお便りを利用者や家族に発行している。出張による床屋や、ヤクルト、十全売店、杏林堂による配達サービス等の社会資源を活用し、生活の質の向上に努めている。感染症の状況に応じ随時面会方法を検討し、なるべく顔を合わせて会話ができるよう、家族や馴染みの方との交流を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

4年ぶりの開催となった法人納涼祭には、学生ボランティアも含め1000人が来場して賑わい、コロナ禍以前のよう地域交流の活気が戻りつつあります。「子どもにかえったみたい」とはしゃぐ姿や、家族と一緒に回り、ポテトや焼きとうもろこしを手に「太鼓、聞いてきたよ」と知らせる表情に嬉し涙を浮かべる利用者もいて、絆の深さを改めて感じる一日でした。事業所理念「気持ちの良い生活」という短いフレーズに込められた万感の思いは、日頃の丁寧な関わりと観察がきめ細やかに組み込まれた介護計画からうかがい知ることができ、その実践は数々の写真に収められた穏やかな表情に裏付けられています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日目に入る玄関に「気持ちの良い生活」と理念を掲示し、職員全体で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た際に、近隣の方々と挨拶を交わしている。また、4年ぶりに法人主催による納涼祭が開催され、ご家族や近隣住民等多くの方々に参加して頂き、交流の場となった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して頂いたり、町内会用のお便りを発行し、認知症の理解や支援、協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回開催し、入退去状況や活動内容、ヒヤリハットや事故事例などの報告をし、地域とのつながりをもてるよう意見交換を行っている。出た意見は、サービスの質の向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、意見交換の機会を作り関係作りに努めている。都合で欠席される場合は、会議資料を役所へ郵送している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ミーティングの際話し合い、また、研修も定期的に関催されており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者様の安全の為にエレベーターの操作や玄関のドアを開ける際は、職員が行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月ミーティングの際話し合い、また、研修も定期的に関催されており、虐待のないように注意を払い、防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会があり、必要性のある方がいたら、状況に応じて活用できるようにしていきたい。すでに活用されている方も数名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様のご家族と十分に話し合い、理解、納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や面談、電話等で要望を伺ったり、あった際は、情報を共有し、意見を反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、管理者、主任、副主任、各計画作成担当で会議を行い、反映させている。それ以外でも、職員が相談しやすい場や時間を確保している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月希望休を通したり、年1回(3日間)リフレッシュ休暇が取られるよう調整している。年に4回自己評価をした上で各自で目標を立て、向上していけるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に参加する機会があり、必要な知識や技術を学んでいる。参加出来なかった職員も、資料を回覧し勉強の機会が設けられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により対面での交流は減ったが、オンラインでの研修へ参加し交流している。そこで意見交換をし、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたばかりの時は特に気にかけて、出来るだけ傍に寄り添い困っていること等要望を聞き、安心して生活できるよう、また信頼関係が築けるように努め、また周りと同様に居場所作りにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の面談の時に出来るだけお話を伺えるよう努めている。また面会に来た時等に利用者様の様子を伝えたり、お話を伺えるよう努めている。 また、職員間で情報を共有するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の要望を聞き、職員間で話し合い、ご本人の様子を見ながら支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、ご本人が出来ること、してきた事が継続して出来るよう支援し、必要に応じさりげなくサポートするように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にてご本人の様子を伝えたり要望を伺ったりして、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染状況に応じ面会方法を検討し、なるべく直接顔を合わせて会話ができるよう配慮している。「外出したい」「電話をかけたい」という要望に応え、関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士近くに居られるよう席の配置に配慮したり、必要に応じて職員が橋渡しをしている。レクリエーションを行う時はできるだけ全員参加できるようにお声がけするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後は疎遠になってしまうことがほとんどだが、ご家族よりお話を伺う機会もある為、築いてきた関係を大事にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴や会話や日頃の様子、ご家族からの情報等から、本人の思いや希望になるべく添えるよう支援をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人から話を聞き、生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録やバイタルチェックを行い、本人とのコミュニケーションや職員間で情報を共有することで、現状の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングやケアプラン会議を行い、現状に沿ったプランになるようにしている。ご家族や医療関係者等の意見も反映し、現状に即した介護計画になるよう作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や受診記録は個別で記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	何かあれば周りの職員やケアマネ、管理者等へ報告・相談し、ご家族等とも協力し、柔軟に対応できるよう常に現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	床屋さんの出張依頼・美容院の付き添い・長年通っていた合唱団への参加など利用者様が豊かな生活を送れるよう支援している。ネットスーパーの活用も始めた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週に1回、かかりつけの病院へ受診している。受診記録をご家族に郵送している。必要に応じ、ご家族に同行していただいたり、治療方針についてご家族に相談している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、バイタルチェックを行い、異変があった時やいつもと様子が違ったり気になることがあった際はその都度看護師に報告・相談している。必要に応じて病院へ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は職員が同行するので常の様子を伝えている。入院中の様子は、看護師や医師から聞いたりサマリーにて情報を共有している。生活環境が変わると不穏になる方が多く、なるべく入院期間が短くなるよう主治医が配慮して下さる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	電話や、面談の場を設け、施設で出来ることを説明し、ご家族の意向等を確認し、方針を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のミーティングで、職員全員がマニュアルを確認し、緊急時に慌てず対応できるようにしている。必要に応じ、マニュアルの内容を更新している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っており、同時に連絡網の訓練も行っている。非常時に備え、厨房業者の備蓄以外にも、長期保管可能なパンや水を施設で備蓄している。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を築けるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、言葉遣いや対応に気を付け対応している。一人の人間、また人生の大先輩であるということを常に頭に置き、対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	余暇時間の過ごし方や、お手伝いをするときは本人に聞いて決めてもらったり、表情からも気持ちを汲み取られる様心掛けている。又、更衣をする際は衣類を選んでもらう等、自己決定できるよう機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人が自分のペースで過ごせるよう支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服を選んでもらったり、個別で化粧やスキンケアができるよう支援している。美容院や、出張による床屋さんで好きな髪形を伝え切ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずをよそってもらったり、味噌汁の具を選んで切ってもらっている。週1回の手作りの昼食はみんなでメニューを考える時間を設けている。片付けは、出来る方が多く自分で食器を洗ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事形態を変えている。しっかり水分摂取ができるように、本人の好みに合わせ飲み物やゼリー等を提供したり、声掛けをして促すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、声掛けにて歯磨きをしてもらっている。屋食前に全員で嚥下体操の時間を設けている。又、年に1度歯科受診をし、口腔内の確認をもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握し、食事前後等にトイレの声掛けや誘導をしている。日中はなるべくトイレで排泄できるよう促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヤクルトなどの乳製品や粉末の食物繊維等を摂取し、自然排便ができるよう援助している。体操や散歩など体を動かし腸活にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様に入りたい時間を聞き、本人の希望に合わせるよう努めている。入浴剤を使用しリラックスした気持ちで入浴できるようにしたり、温度計で温度を確認して事故予防すると共に、その人にあった温度で気持ち良く入浴ができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は活動的過ごし、夜間はゆっくり休息ができるよう生活リズムを整えている。室内に温湿度計があるので調整をし、快適に過ごせるようにしている。トイレが近い方にはポータブルトイレを置き、安心して休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の情報を把握できるように、個々にお薬情報をファイルに閉じている。体調の変化によって薬の調節が必要な場合は、看護師に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にできる事を提案し、パズルや塗り絵、書き取りや計算問題などに取り組んでいる。洗濯干しや食器洗いをし役割を持ち張り合いのある生活ができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響で外に出る機会が減っていましたが、状況に応じ家族や友人と、お墓参りや自宅へ外出する機会もある。日々の散歩は継続している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様のお金は、お小遣いとして職員が管理している。手持ちがほしいと利用者様から要望があった際は、ご家族等と相談の上、自己管理が可能な範囲で渡す場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	正月にはご家族に年賀状を書いたり、知人と手紙交換をしている方もいる。必要に応じてご家族や友人と電話でのやりとりもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りやぬりえを利用者様と作成し、食堂前の掲示板に掲示して、季節感を味わうようにしている。また適切な温度、湿度を保つようにエアコンや加湿器で調節をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で話ができるよう、席の配慮をしたり、食堂にはソファが置いてあり、テレビを見たり自由に過ごせる環境をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた家具等を置くようにしている。居室の家具は家族や本人と相談して配置するようにし、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に貼り紙をして、場所を分かりやすく表示している。		